

LA WORLD 021

グローバル
ランドスケープ通信
vol.21

cicada market
Huahin, Thailand



シケダマーケットのあるホアヒンは、タイの首都バンコクの南西約 200 キロメートル、タイ湾を挟んでパタヤの対岸に位置する。古くから王室の保養地として発展した優雅な気品漂うリゾート地であり、都会の喧噪から離れた穏やかな時間が流れている。そんなホアヒンに 2010 年に開設されたばかりの cicada market (シケダマーケット) は、若手アーティスト達を世間とつなぐ支援をするユニークな場として賑わい、注目を集めている。



若手アーティスト の活躍の場

cicada market には水辺や芝生広場、円形の屋外劇場があり、一見ふつうの公園のようであるが、ここは元々は1万6000平方メートルの広大な敷地に大きな木々が生き茂り、夏になると無数のセミが鳴き声を響かせる場所であった。そのようなことから“cicada”(訳すとセミ)という名になったという。マーケット内ではストリートパフォーマンスが行われる円形の劇場や、アーティスト達が作った作品が多く売られるフリーマーケットスペース、ワゴンや車を改造したお店、既存建物をそのまま使用したギャラリーなどがあり、ユニークな場となっている。



建物内からのマーケットの景色
(出典：http://www.facebook.com/cicadahuahin/photos_stream)

シケダマーケットのあるホアヒンはいまや有名なりゾート地であるが、これは1911年にバンコクから当時英国の植民地だったマレーシアへと続く鉄道が開通したことにより多くの欧米人が保養に訪れるようになったことが始まりである。鉄道の開通後、ビーチ沿いに王室の別荘が次々と建てられ、現在のよ
うな静かで格調高い雰囲気がつくられてきた。若手アーティストは、使われなくなった別荘をギャラリーとして作品を展示したり、建物内をカフェにして活用したりしている。この地の別荘建築は1950～1960年代のコロニアル建築で白い。そして特徴的なのは窓にガラスがはめられていないということである。外と内の区別がほとんどなく、屋根、柱、壁という最小限の構成で作られていて、とても開放感があり気持ちのいい空間である。建物内にも常に視界には外の景色が入る。きれいに管理されている芝生や石畳、たくさんの大きな樹木、作品を広げる若手アーティストやショッピングを楽しむ人々など、生き生きとした光景を建物内からも感じることができる。名前の由来ともなった樹木は、このマーケットにとって特別な存在である。観光客に木陰を作るだけでなく、マーケットの穏やかな雰囲気を作り出しているのも、この南国ならではの青々とした樹木があることに起因するのだろう。



フリーマーケットスペースの様子
(出典：http://www.facebook.com/cicadahuahin/photos_stream)

フリーマーケットスペースは、敷地の外側を囲むように配置され、小さなスペースにたくさんの作品を並べていた。ここにも大きな樹木が植栽されており、その張り出した枝には照明がぶら下げられていた。まるで樹木が照明装置の一部のようにこの場に溶け込んでいる。

また、ここで若手アーティストの作品を実際に顔を合わせて手に入れることが出来るだけでなく、ほとんどの商品がここでしか手に入らないオリジナルなものである。さらに、若手アーティストの作品展示の場に留まらず、それを買うことで彼らの活動を支援することにもなる。このような観光客を巻き込んだ新しい試みがcicadaの一番の特徴であり、世界中から注目を集めている理由である。

これまでのリゾート地にあるものとは少し違う、若手アーティストの活動の場としてのマーケットというユニークなこの試みは、今後世界でも広がりを見せていくだろう。

(取材：鯨岡菜)

info

Address: Khao Takieb-Hua
Hin Road or Hua Hin 87,

Hours: Every Friday, Saturday 16:00 ~ 23:00
and Sunday 16:00 ~ 22:00

Map:

